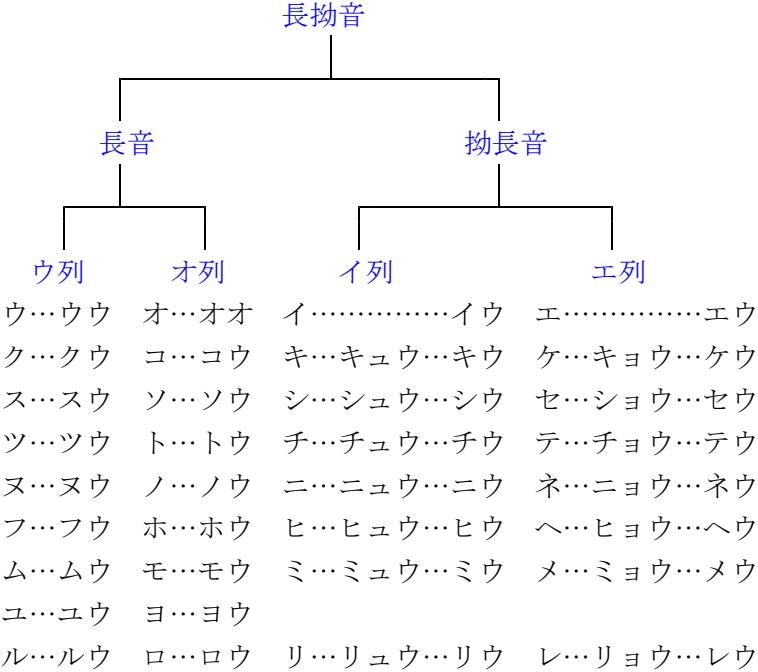


長拗音

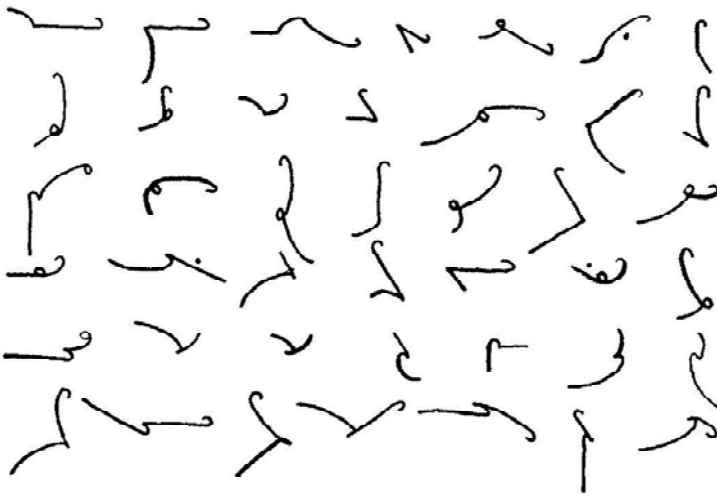
ウ列、オ列を長音、イ列、エ列を拗長音とっておりますが、次のように書いてみますと、どちらも2音目が「ウ」という形になりますので、ここでは長音も拗長音も、「ウ」のかわりに、頭に大カギをつけて簡単にします。



長拗音表

エ列	イ列	オ列	ウ列
エウ 	イウ 	オウ 	ウウ ←
キョウ 	キュウ 	コウ 	クウ
シヨウ 	シュウ 	ソウ 	スウ
チョウ 	チュウ 	トウ 	ツウ
ニョウ 	ニュウ 	ノウ 	ヌウ
ヒョウ 	ヒュウ 	ホウ 	フウ
ミョウ 	ミュウ 	モウ 	ムウ
リョウ 	リュウ 	ヨウ 	ユウ
		ロウ 	ルウ

長拗音 例題



好意	神戸	大阪	風紀	通信	数字	空気	
ひょうたん	中心	周囲	休暇	毛氈	道路	豊富	
尊重	明晩	評論	調子	商品	京都	入選	
習慣	頭脳	寄贈	興味	後期	十分	両親	
信号	使用	自由	気流	架空	微笑	疲労	
放送	交通	労働	東洋	要項	級長	優勝	

拗短音表

拗短音は、ア列の「カサタナハマラ」に長音と同じ大カギをつけて、キヤ、シヤ、チャ、ニヤ、ヒヤ、ミヤ、リヤと読むことにします。

その他のよく使われる、シュ、シヨ、リヨ、キヨ、チヨは、特にカギのつけ方に注意し、ニュ、ニヨ、ヒヨはカギの中に加点することを忘れないでください。

キヨ



シヨ



チヨ



ニヨ



ヒヨ



ミヨ



リヨ



キュ



シュ



チュ



ニュ



ヒュ



ミュ



リュ



キヤ



シヤ



チャ



ニヤ



ヒヤ



ミヤ



リヤ

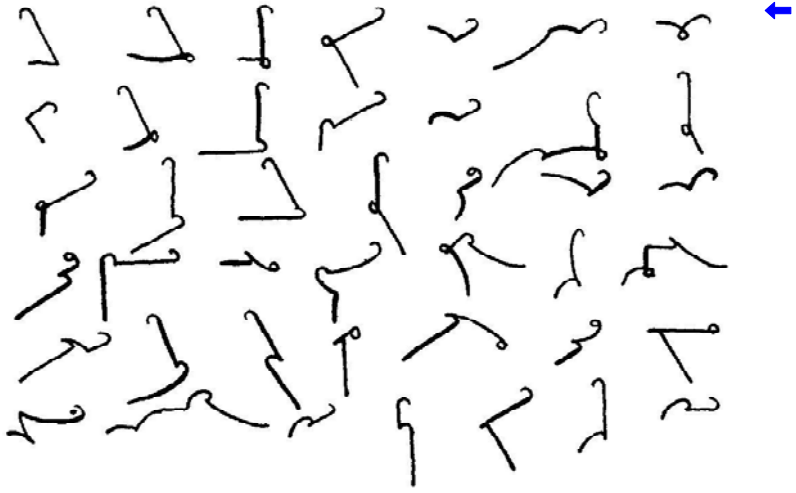


拗音の覚え方

キョウ	ケ	キュウ	キ	キヤ	カ	←
ショウ	セ	シュウ	シ	シヤ	サ	
チョウ	テ	チュウ	チ	チャ	タ	
ニョウ	ネ	ニュウ	ニ	ニヤ	ナ	
ヒョウ	ヘ	ヒュウ	ヒ	ヒヤ	ハ	
ミョウ	メ	ミュウ	ミ	ミヤ	マ	
リョウ	レ	リュウ	リ	リヤ	ラ	
チョ	キョ	リョ	ショ	シュ		

[ユウはイウ、ヨウはエウ] を用います。

拗短音 例題



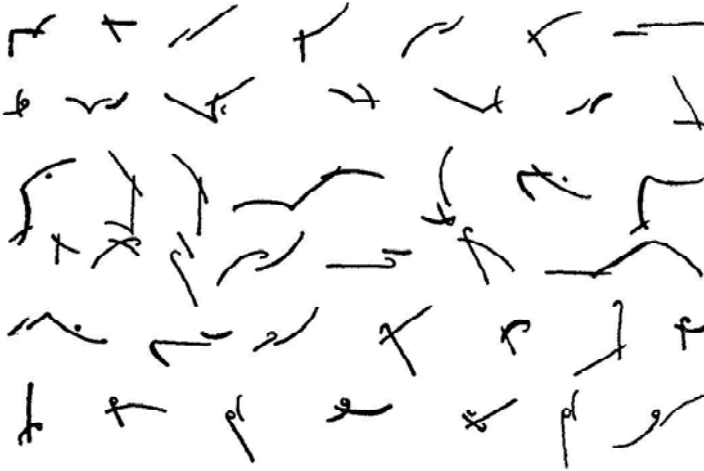
許可 去年 旅館 所見 趣意 茶店 社員
茶器 巨人 旅行 暑中 趣味 百面相 貯金
諸君 著書 举行 旅券 準備 需要 邪魔
順序 考慮 行脚 省略 お茶碗 本社 お客さん
趣意書 漁場 漁業 端緒 援助 真珠 根拠
如来 釈迦様 取捨 躊躇 除去 著者 華奢

拗短音 読む練習

Handwritten practice text in cursive Kuzushiji style, consisting of approximately 10 lines of characters. A blue arrow on the right points to the top right corner of the text area.

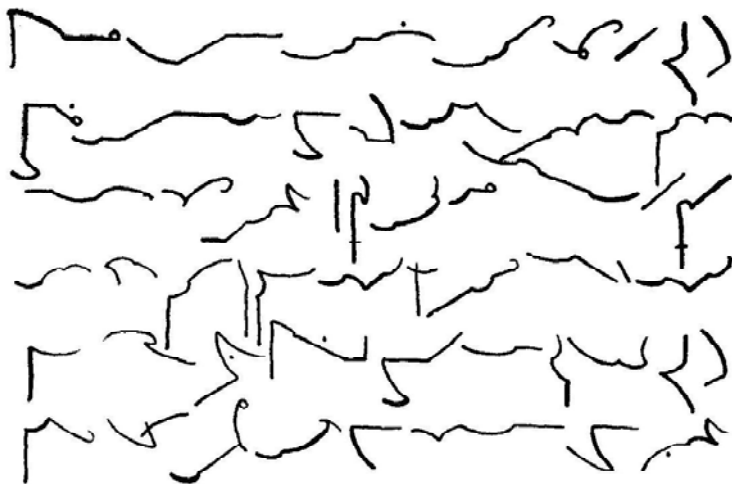
詰音

詰音 例題

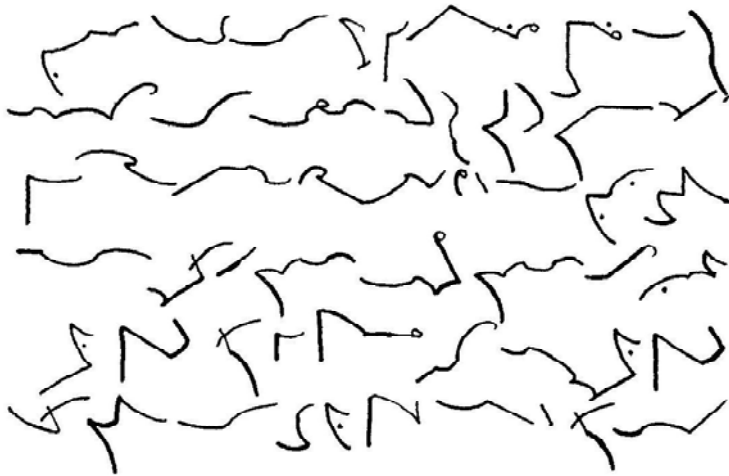


錯覚 楽器 取った 設置 質素 速記 国家
発信 実際 突発 厄介 発達 雑誌 結果
滑った 決定 よって 最も 発起人 うっかり 登った
あっち 一層 吉凶 節操 学校 越境 江戸っ子
歌った にっこり 摂取 特許 惹起 一寸 日中
デッサン 木琴 発見 熱心 突風 発展 率先

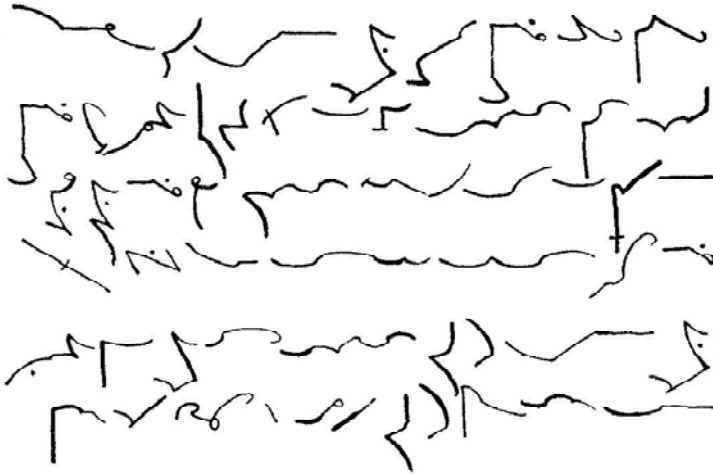
文章例題（詰音まで）



私はただ創案当時の昔のことを考えて
みまして、皆様と同じに若いころに何事かに文化的な
努力と熱意を感じ、非常に微力でありましたが、そういうものが、
次第に1つの種子となって、次第に伸びてきて、そして今やまさに
私は花を開くかのところに近づいておると思うので
あります。これをこの際、これ以上に、本当に速記を通じて



我々の文化的な産物として、いよいよその花を咲かせる
ということは、私はやはり若い皆さんのその聡明な、
お力にすぎるのが、一番大切じゃないかと思うので
あります。どうか皆様は、現在の皆様は、ただ速記というものが、
技術であるというような、そうした考えではなく、速記は技術である
と
ともに、速記は1つの知恵である。さらに、その奥には速記を



通じて、大きな文化的な悟りがあるということを、ぜひお考え
くださいまして、皆様の日々の、速記ばかりではありません。いろい
ろ文化的な

ご努力の、そのせつなせつな、皆様は日本文化、あるいは人類
文化、そうしたものの何物かを、築きつつ

あるということを、私は皆様に申し上げたいのであります。

この意味において、私はただ単に一創案者という意味で、



なく、一日本国民といたしまして、皆様のこの上のご活動を、衷心祈りまして、今日の私のごあいさつにかえる次第であります。

〔中根式創案40周年記念式典での創案者あいさつの一節〕